

平成 28 年 1 月の解説（週間天気予報）

【1月の天候状況】

上旬は、日本付近は弱い冬型の気圧配置となりましたが、北日本では気圧の谷の影響を受けやすく、北日本日本海側では旬間日照時間が平年比 45% となり、1 月上旬としては 1961 年の統計開始以来最も少なくなりました。一方、北・東日本と西日本日本海側の降水量は少なく、東日本太平洋側では旬間日照時間がかなり多くなりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、先島諸島では大雨となったところがありました。また、北からの寒気の影響が小さく、気温は全国的に高く、東・西日本と沖縄・奄美ではかなり高くなりました。特に、南からの暖かい空気が流れ込んだ沖縄地方では、夏日となったところもありました。

中旬は、本州の南岸や本州付近を低気圧が通過したため、全国的に数日の周期で寒気が流れ込み、降水量は全国的に多くなりました。特に、18 日から 19 日にかけては、低気圧が本州付近を発達しながら通過し、19 日には北海道の東海上で発達して冬型の気圧配置が強まりました。このため、太平洋側でも所々で大雪となりました。また、北海道や北日本から西日本の日本海側の広い範囲で暴風雪となりました。沖縄・奄美では、低気圧や前線の影響で旬を通して曇りや雨の日が続き、旬間日照時間はかなり少なく、旬降水量は平年比 272% となり 1 月中旬としては 1961 年の統計開始以来最も多い記録を更新しました。

下旬は、旬の中頃までは冬型の気圧配置が強く、特に 24 日から 25 日にかけては、強い寒気が流れ込みました。このため、日本海側や西日本太平洋側の所々で大雪となり、24 日は長崎（長崎県）で積雪の深さが 17cm となり、1906 年の統計開始以来最も大きい記録を更新しました。沖縄・奄美では名瀬（鹿児島県）で 1901 年 2 月 12 日以来 115 年ぶりに雪を、久米島（沖縄県）で 1977 年 2 月 17 日以来 39 年ぶりにみぞれを、名護（沖縄県）で観測史上初めてみぞれをそれぞれ観測しました。また、25 日前後に東・西日本と沖縄・奄美のアメダスを含む 74 地点で統計開始以来の日最低気温の低い記録を更新し、3 地点でタイ記録となりました。

月平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で高くなりました。月降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側、東・西日本で多くなりました。月間日照時間は、東日本日本海側、西日本、沖縄・奄美でかなり少なくなりました。降雪の深さ月合計は、西日本日本海側でかなり多くなった一方、北日本日本海側でかなり少なくなりました。

【1月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値^{（注）}より 4 ポイント高い 77% でした。各地方の適中率では、全ての地方で例年値よりも高くなり、特に東海地方と近畿地方で 8 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.8 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値よりも小さくなり、特に北海道地方と東北地方で 0.5～0.7 小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.7 となりました。各地方の予報誤差は、全ての地方で例年値よりも小さくなり、特に東北地方と九州南部地方で 0.5～0.7 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3月の週間天気予報の利用にあたって】

3 月は各地方とも次第に暖かくなってきますが、低気圧が接近すると南から暖かい風が吹き込んで気温が上がり、通過後は北からの冷たい風が吹き気温が下がるなど、気温が大きく変動しやすい時期です。4～5 月頃のような暖かさから一転して 1～2 月頃の寒さとなることもあります。週間天気予報の利用にあたっては、天気とともに気温の変化にも留意して下さい。